

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300453		
法人名	社会福祉法人 相清福祉会		
事業所名	グループホーム 希望の里		
所在地	山口県山口市鑄銭司2361-3		
自己評価作成日	平成24年6月12日	評価結果市町受理日	平成24年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成24年7月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自分で出来る事は自分で行い、お元気で楽しく生活をして頂く。家族や地域の方と関わりを持ちながら、関係を継続し楽しく生活をして頂く。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事は法人からの配食を利用されていますが、月に3回、利用者と一緒に食事の準備から後片づけまでの昼食づくりを楽しんでいます。事業所の庭での食事や外食、手づくり弁当やお店で買った弁当を持参して戸外で食事をされるなど、場面を工夫されて、食事が楽しみなものになるように支援されています。利用者それぞれの居室は広々として明るく、畳の間には、馴染みの家具や生活用品が置かれ、本人の作品や家族の写真などを飾って自宅との違いが少ないように配慮しておられ、一人ひとりが自分らしい部屋づくりができるように支援しておられます。外部研修、法人研修、事業所内研修など、全職員の受講の機会を確保され、働きながら学べるように、職員を育てる取り組みをしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分で出来ることは自分で言い、地域の中で楽しく過ごす』という希望の里独自の理念を掲げ、職員全体で共有できるよう実践している。	地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示して共有している。管理者は業務の中で、理念に沿った支援ができているかを確認し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とまではいかないが、近くの学校の運動会を見学したり、地域の祭りに参加するなどし、地域とのつながりをもっている。	法人の「いきいきデイサービス」を利用している地域の人(10名)が毎週木曜日に、事業所を訪問して利用者と交流している他、法人の行事に参加して小学生や幼稚園児とふれあいを楽しんだり、ボランティアの演芸を見たり、近くの小学校の運動会の見学や、地域の秋祭りに出かけるなど、地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所自体としては行っていないが、法人としては地域などで寸劇を行いながら伝える取り組みを行っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	前回の評価での指摘事項を理解し、改善努力をしている。職員全員が同じ援助方針をもてるように、月に一回ミーティングを行っている。	評価の意義を理解して上で、全職員で自己評価に取り組んでいる。職員一人ひとりが自己評価することで、いろんな視点からのケアのあり方につながったと捉えている。前回の外部評価結果については、ミーティングで話し合い、言葉かけに関する問題点を取り上げ具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	山口市基幹型包括支援センターや地域の民生委員も参加して頂き、会議の中で助言や意見を出してもらいながら、サービス向上に繋げるようにしている。	2ヶ月に1回開催し、事業所の状況や行事、市の介護相談員からの意見などを報告し、意見交換をしている。対応の仕方など意見をサービス向上に活かしている。	・地域メンバーの拡大

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡を取ることは少ないが運 営推進会議等には、市の担当者に出席して 頂き、事業所の実情や、ケアサービスの取 組みを伝え、協力関係を築いている。	運営推進会議の他、市の担当課とは、電話 や出向いて、情報交換や相談をし、助言を得 るなど協力関係を築くように取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしておらず、身体拘束 をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、法人の研修や内部研修で 身体拘束について学び、職員は正しく理解し て身体拘束をしないケアを実践している。日 中、玄関の施錠はしていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	虐待防止は常々職員全員で行っており、勉 強会でも取り入れ、徹底している。身体面の 観察も行い、見過ごす事がないように注意し ている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	成年後見制度の活用方法の勉強会を行っ て知識の向上を図っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	利用契約時には十分に説明を行い、理解・ 納得の上、契約開始している。改定時には 文章で連絡をしたのち、家族会にて説明を 行い、了解を得ている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や 処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望 を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を 設け、それらを運営に反映させている	苦情報告書を作成し、苦情の受付体制や意 見箱の設置など、意見や要望に対応できる ように心がけている。苦情や意見があった場 合はミーティングや申し送りノートを使用して 職員に伝えている。	利用者の相談、苦情等は、市の介護相談員 が聞きとりをしている。利用者の意見や要望 は日々の業務の中で聞いている。家族から は、電話や面会時等に聞き、ミーティングで 話し合って共有し、出された意見や要望を運 営に反映させるよう努めている。相談、苦情の 受付体制や処理手続きを定め周知している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や 提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案など代表や管理者が聞き入れて もらえることで、職員もやりがいもてるよう になっている。	朝、夕の申し送り時や、月1回の全職員参加 のミーティングで職員の意見や提案を聞く機 会を設けている。衛生面からリビングに手洗 い場の設置が必要ではないかとの職員の意 見を反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた職場環境を作り、やりがいをもてるように整備している。給与水準は人事考課を活用し、昇給に反映している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は当日夜勤者又は、夜勤明け以外の職員全員が参加している。法人外の研修にも出来る限り参加する機会を持たせ、職員一人ひとりのスキルアップを図っている。	外部研修は、段階や研修内容に応じて、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講者は復命報告をし、研修資料を閲覧できるようにして共有している。月1回の法人研修には勤務以外の職員は全員参加している。内部研修は月1回のミーティング(夜勤者以外全員)の中でテーマを決めて実施しているなど、職員を育てる取り組みをしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(社)県宅GH協会に所属しており、同業者とのネットワーク作りや相互訪問等の活動を行い、良い面を見習い、サービスの向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不満などの訴えがあった場合は安心出来る様に傾聴を行っている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に要望や不安点を聞きだし、アドバイスをしながら不安点を解消し、信頼を得られるようにしている。要望に関しても出来る限り応えるようにしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、現状支援の把握や見極めを行い、身体面の異常がある場合に、他サービスの利用も視野に入れて対応するように努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力を活かしてできる事は行っただき、その役割を重視して関わりを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り多く面会や行事への参加をして いただくように声を掛けている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通院の為に病院に行った時や法人内の特 養に行った時、知人に会うことで、関係が途 切れないように心がけている。また、自宅へ の外出もされている。	月1回実施している外出行事の時に、利用者 の自宅周辺を通るようにしたり、法人のデイ サービス等の利用者や身内、友人の訪問の 支援や年賀状や電話での交流を支援してい る。家族の協力を得て自宅で昼食を食べた り、法事、葬儀への参加や墓参りなどの支援 をし、馴染み人や場との関係が途切れない ように取り組んでいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せ ずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	レクリエーションや行事等の参加で一緒に行 動ができるように援助し、利用者が孤立しな いように心がけている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援センターなどと協力しながら支援を行っ ている。関係性を大事にし、退所後の相談 にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日常の会話や行動の中で利用者の希望・意 向を把握するよう努めている。重度化が進む 中で困難になってくる時は、ご家族と相談を し、快適に過ごせるように配慮している。	フェースシートやセンター方式のシートを活用 して把握する他、日常の関わりの中での言葉 や行動をケア記録に記録して思いや意向の 把握に努めている。困難な場合は、家族から 聞き取ったり、利用者の表情や行動から推し 測り、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	生活歴の把握を行い、生活リズムを壊さない ようにして生活環境を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	統計的な観察や、日々の訴えを考慮して状態を把握し、ケアプランに沿った対応をしている。残存機能を活かしながら自立対策の援助を行い、生活リハビリとして家事仕事をしていただいている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者や担当者が本人・家族等に希望を聞き、ミーティングの際に職員全員で検討し、現状に即した計画を作成している。家族に説明し、同意を得ている。	利用者を担当する職員が本人や家族から聞き取った意見、希望などの他、必要な人は訪問看護師や医師の意見を参考にしてミーティングで話し合い介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月に1度評価して計画を見直している。利用者の状態に変化がある場合はその都度見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録は個別に記録し、情報を共有している。気づき等がある場合は、職員間で話し合い、ケアプランの見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況を的確に把握し、柔軟な支援や他サービスとの併用をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回手芸ボランティアにより、手芸に参加するなど、地域資源の活用を行っている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	協力医院にて受診を行っている。	1名の利用者は、本人、家族の希望するかかりつけ医に家族が同行し、月1回受診している。他は協力医療機関をかかりつけ医とし、受診の支援をしている。2名の利用者が月2回、訪問診療を受けている。他科の受診にも職員が同行するなど適切な医療を受けられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回訪問看護を利用することで連携を図り、適切な看護や受診のアドバイスを受けられる体制となっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の医療体制も連携が図られており、病院関係者との情報交換や相談に努め、利用者や家族が不安にならないように病院関係者との関係作りを行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期の対応については入居時から説明し、了解を得ている。また、法人内の特養を含め、他施設などの多様なサービスの中から終末期の対応を選べる事も説明している。	契約時に事業所のできる重度化や終末期の対応について口頭で家族に説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、その都度、家族と話し合い、共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故後は事故報告書を作成し、未然に防げるよう対応している。年一回緊急時の対応の勉強会を設けており、実践力を身につけられるようにしている。	事故・ニアミス報告書に記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、管理者が検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。勉強会を年2回実施しているが訓練を行うまでには至っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年、スプリンクラー設置や消防署への直通連絡設備等の設置を行い、年二回防災訓練を実施し避難経路の確認および訓練を行っている。また法人内の特養と協力体制をとっている。	年2回防災避難訓練を実施している。法人間やすぐ近くにある消防学校との協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。	内部研修で学び、利用者には年長者として敬意を払って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が選択し、自己決定ができるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人からの訴えを重視し、意思確認をして一人ひとり、本人の望むペースで過ごせるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を希望する方には化粧道具を購入するなど、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や後片付けは利用者が主になって行っている。	食事は法人からの配食を利用している。利用者は盛り付け、テーブル拭き、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。月に3回は事業所で昼食づくりをし、利用者が調理に参加している。利用者と職員が同じ食卓を囲んで、同じものを楽しく、和やかに食べている様子が伺えた。事業所の庭での食事やお弁当を作って戸外での食事、お弁当を購入してドライブに出かけたり、外食するなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた食事を提供し、食事摂取量は常にチェックしている。歯のない利用者には刻み食を提供したり、摂取量の少ない利用者に高カロリーゼリーを提供するなど、個別に対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛け・促しによって、毎食後口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や排泄チェック表を活用しながら、排泄パターンの把握をし、排泄自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握して、見守りや、声かけ、誘導など、それぞれに合わせてトイレでの排泄ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者には病院から処方された坐薬を四日に一度使用するなど、個別ケアを行っている。毎日牛乳を提供したり、掃除などで体を動かしていただくなどの工夫も行っている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ほぼ毎日午後1時30分より入浴を行い、一人ひとり声掛けで入浴を促している。入浴しながら利用するには強制はせず、時間において再度声掛けをしたり、清拭にて対応するなどの支援をしている。	入浴は毎日、13時30分から17時まで可能で、利用者の希望や体調に応じてゆっくり入浴が楽しめるように支援している。入浴したくない人には、無理強いせずに職員が交代したり、タイミングを図ったり、言葉かけに工夫するなどして支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時間は利用者それぞれであり、それに合わせて対応を行っている。夜間帯の安眠を妨ぐことのないよう支援をしている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、訪問介護の協力を得て、薬の目的や用法・用量など職員全員が把握できるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望の里での行事や外出支援を行うと共に、法人全体の行事に参加し楽しみごとを増やしている。また、積極的に家事仕事を行ってもらい、張り合いのある生活が送れる様に支援している。	テレビ視聴、新聞を読む、絵を描く、手芸、歌、歌体操、ゲーム(トランプ、絵合わせ、お手玉、カルタなど)居室の掃除、草とり、畑づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者一人ひとりが張り合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に希望を聞き、戸外に出かけている。近隣の公園や近くの学校の運動会、地域のお祭りなどにも出かけている。外出時は殆ど職員が支援している。	庭や近くの公園の散歩、買物、ドライブ、季節の花見など戸外に出かけられるように支援している。家族の協力での外食や買い物、通院の支援もしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より所持金を預かり、職員が必要物品を購入している。必要物品は家族購入が出来ない時のみ行っている。利用者は殆ど金銭を所持しておらず、使われることはない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望される時には、職員が家族に電話をし、話をされる時がある。本人自ら電話をされることはない。手紙は書かれる事がないが、年賀状を出される方はある。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った花を活けたり、掲示物を飾ったりして季節感を出している。また、窓からは山が見え、花や木々で季節を感じることもできている。共用空間に不快や混乱を招くような刺激は少なくなるように配慮している。	共同空間は、明るさや音、湿度、換気等に配慮している。窓から見える景色(畑、山、木、花)で、利用者は四季の移り変わりを感じることができる。リビングは新しく手洗い場も設置しており、ご飯を炊いたり、汁物を作る匂いが漂って、利用者の食欲にもつながり、生活感がある。テレビ、ソファ、テーブル、椅子が配置しており、利用者一人ひとりが思いのまま過ごせるよう居心地よい空間づくりを心がけている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は気の合った者同士になるよう配慮し、居心地がよい空間になるように工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや箆笥など使い慣れた家具を持ち込まれ、好みに合った居室作りになっている。居室の広さは大・中・小と異なり、料金は別形態となっている。	居室は畳の部屋もあり、それぞれに馴染みの家具や生活用を持ち込んで、利用者の作品や家族の写真を飾り、一人ひとりが自分らしい部屋づくりをしている。訪問時、数人の利用者が「私の部屋を見てください」と競って居室を案内し、客を自宅に迎えるように居室に招き入れ、家族の写真を出して話したり、絵日記を見せたり、笑顔で思い出を語るなど、居心地良く安心して過ごしている様子が伺えた。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差はあるが、廊下や浴室に手摺りが設置されているので、安全に移動や入浴が出来る様になっている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム希望の里

作成日：平成 24年 11月 5日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応の勉強会を行っているが、訓練の実施が出来ていない。	応急手当や初期対応が全員出来るようになる。	毎月、勉強会を行っているが、訓練の実施が少ないので、応急手当や初期対応の訓練の実施を行い、職員全員が出来る様にする。	1年間
2	5	運営推進会議に山口市基幹型包括支援センターや地域の民生委員も参加して頂いているが、もう少し出席者を拡大し、助言や意見を頂きサービス向上に繋がった方が良い。	運営推進会議への出席者を拡大し助言や意見を頂き、サービス向上に繋げる様にする。	運営推進会議に山口市基幹型包括支援センターや地域の民生委員も参加して頂いているが、ボランティアの方等にも参加をして頂く様にする。又出席者の拡大にも努める。	1年間
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。